

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度 技術情報第8号(サツマイモ基腐病)について (送付)

サツマイモ基腐病について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。



## 令和7年度 技術情報第8号

6月の調査において、さつまいもで基腐病の発生を確認しました。梅雨期に入り、基腐病の発生に好適な条件となることが予想されることから、ほ場をよく見回り、発病や排水対策を確認するなど、適切な防除に努めてください。

- 1 対象病害虫 基腐病
- 2 対象作物 さつまいも
- 3 調査地域 南薩地域、大隅地域、種子島
- 4 発生状況及び情報の根拠

- (1) 6月5～10日に実施した定点ほ場調査(104ほ場)において、南薩地域の8ほ場、大隅地域の2ほ場で、本病の発生を確認した。なお、発生ほ場での発病程度は低く、数株程度である。
- (2) 発病が認められた品種は、基腐病抵抗性やや弱の「コガネセンガン」がほとんどであった。
- (3) 本年は、平年に比べ、2月から気温がやや低めに推移していることから、さつまいもの苗の植付や生育の遅れに伴い、本病の発病も遅延しているものと予想される。一方で、これから梅雨盛期を迎えることから、降雨や停滞水による本病の拡大が懸念される。

### 5 防除上注意すべき事項

- (1) 発生ほ場では、胞子を多量に形成する発病株をほ場外へ持ち出すとともに薬剤散布(表1)を実施する。また、本病に弱い品種の栽培ほ場では未発生でも予防散布を行うと効果が高い。
- (2) 現時点での発生ほ場での発生株は、数株であり、抜き取りが可能であることから、ほ場を見回り、発生が認められる株は早急に抜き取る。なお、発病株抜き取り後の補植は行わない。
- (3) 枕畝を設置したため、排水対策が不十分なほ場が見受けられた(図1)。排水路側に枕畝を作った場合は、枕畝の途中に排水溝を設置する。
- (4) 梅雨盛期に向けて、排水状況を降雨後に再確認する。その際、ほ場内の明きよを排水路に確実に接続するとともに、排水路の土砂等を取り除き、排水機能を確保する。

表1 基腐病に使用できる主な農薬（令和7年6月11日現在の登録内容）

農薬名	希釈倍数	使用薬液等	使用回数
<b>&lt; 苗消毒 &gt;</b>			
ベンレート水和剤	500～1000	30分間苗全身浸漬	植付時までの処理は1回以内
ベンレートT水和剤20	200	30分間苗全身浸漬	植付時までの処理は1回以内
<b>&lt; 地上散布 &gt;</b>			
アミスター20フロアブル	2000	100～300L/10a	3回以内 <sup>注)</sup>
ICボルドー66D(銅剤)	50	100～300L/10a	—
クプロシールド(銅剤)	1000	100～300L/10a	—
ジーファイン水和剤(銅剤)	1000	200～300L/10a	—
Zボルドー(銅剤)	500	100～300L/10a	—
トリフミン水和剤	2000～3000	100～300L/10a	2回以内 <sup>注)</sup>
フロンサイドSC	1000	100～300L/10a	2回以内
<b>&lt; 無人航空機による散布 &gt;</b>			
アミスター20フロアブル	12～32	1.6L/10a	3回以内 <sup>注)</sup>
トリフミン水和剤	16	0.8～1.6L/10a	2回以内 <sup>注)</sup>
クプロシールド	16	1.6L/10a	—
クプロシールド	32	3.2L/10a	—

注) 使用回数は、地上散布と無人航空機による散布と合わせた回数以内とする。



図1 排水不良で湛水が認められるほ場  
(令和7年6月10日撮影)